瑞宝単光章〔消防功労〕

佐藤（さとう）　東一郎（とういちろう）さん〔本吉町風越 74歳〕

昭和46年に本吉町消防団に入団以来、平成 21 年に副団長として退団されるまでの38年余にわたり消防活動にご尽力されました。

「災害現場対応は訓練と現場経験により培われる」との思いと「自身を守ることができて、はじめて住民を守ることができる」との信念から自己管理を徹底し指導実践してきたほか、県操法大会の訓練では、分団を越えて選手をサポートする体制づくりを行うなど、団結力の向上にも力を注がれました。

また、平成 8 年から 13 年間は地区自治会長も兼任し、消防活動の経験から貯水タンクと周辺の街路灯整備を進めるなど地域防災に貢献されました。

受章には「家族の理解と団員の協力があったからこそ消防団の活動を続けることができました。感謝しています。」と話されました。

瑞宝単光章〔消防功労〕

福田（ふくだ）　力雄（りきお）さん〔古町 75歳〕

昭和42年に気仙沼市消防団に入団以来、平成20年に分団長として退団されるまでの41年にわたり消防活動にご尽力されました。

火災現場で消火活動の手伝いをしたことがきっかけで、市消防団に入団。「技術を身につけるには日々の訓練から」と、日ごろの基礎訓練を重視したほか、消防団歌にもうたわれる『和衷団結』をモットーに、団員との『和』を大事に指導実践されました。また、一番印象に残った出来事という平成元年に発生した大川重油流出事故では、テントで寝泊まりしながら対応し、断水解消に尽力されました。

今回の受章にあたり「職場、家族の理解、そして同僚のおかげ。感謝しています。」と話されました。

瑞宝単光章〔消防功労〕

及川（おいかわ）　忠（ただし）さん〔南三陸町歌津 78歳〕

昭和 40 年に本吉町消防団に入団以来、平成 16 年に分団長として退団されるまでの 39 年余にわたり消防活動にご尽力されました。

及川さんは「火事などの災害現場では、瞬時の判断と行動が求められるので、日頃の訓練は重要と考え活動してきました。みんなが団結して、懸命に訓練し操法大会に出場したことがいい思い出です。防災活動では、地域の皆さんの防災意識が高く、訓練にも積極的に参加してもらったので非常に助けられました。消防団活動を続けることができたのは、地域の方々や団員、どんなときも陰ながら支えてくれた家族の理解、支援のおかげです。感謝しています。」と話されました。

危険業務従事者叙勲

瑞宝双光章〔消防功労〕

吉田（よしだ）　東（あずま）さん〔台 65歳〕

昭和44年に気仙沼市消防本部消防士に就かれて以来、平成23年に気仙沼消防署長として退職されるまで42年にわたり、地域住民の生命や財産の保全にご尽力されました。

「災害現場では、瞬時の判断と対応が求められるので、チームワークを重視し、署員間の信頼関係を大事にしてきました」と語る吉田さん。

災害での現場対応のほか、新潟県中越地震を経験した自身の経験を防災に活かすため、県内50か所以上で講演を行い、消防団や婦人防火クラブなどに『自助・共助』の重要性を訴えるなど、防災にも力を注がれました。

受章に「先輩や同僚をはじめ、関係機関、地域の方々、家族など多くの皆さんの支えのおかげです。感謝しています。今後の後輩の活躍に期待しています」と話されました。

7人の方々が叙勲の栄誉

～平成28年 秋の叙勲～

平成28年秋の叙勲で、本市から次の方々が受章されました。

旭日双光章〔地方自治功労〕 千葉（ちば） 清八（せいはち）さん〔唐桑町荒谷前 74歳〕

昭和 54 年に当選以来、平成 18 年に退任されるまで 7 期 27 年にわたり、唐桑町議会議員を務め、産業建設常任委員長、議会運営委員長、公立気仙沼病院組合議会副議長などを歴任され、広く信頼を得て地方自治の振興に寄与されました。また、基幹産業である水産業の振興においても、防波堤や突堤、船揚場の建設を進めるなど漁港の整備や改善に尽力されました。

「合併して広くなったからこそ、行政が声を拾い、住民とともに歩むまちづくりをしてほしい」と話す千葉さん。受章には「特別な功績を残しておらず、自分には縁がないと思っていましたが、多くの皆さんの支えがあったからこその受章と思っており、感謝しています」と話されました。

瑞宝双光章〔教育功労〕 清原（きよはら） 正臣（まさおみ）さん〔波路上岩井崎 71歳〕

昭和 43 年に教員になられて以来、平成 17 年に志津川小学校の校長として定年退職されるまでの 37 年にわたり、学校教育や社会教育にご尽力されました。

「子どもたちの命を大切にすることや、『生きる力』をつけることが第一。学んだことを糧に自分の道を切り開いてもらえるよう、基礎基本を大切にした指導を心がけた」と話す清原さん。緑化教育や福祉教育の分野、また、公共施設の見学などでは、地域の方々のご協力や社会教育の関係者の方々にご指導をいただきながら、体験学習にも力を注がれました。

教員の傍ら、家業である宮司も務め、「地域の方々の協力があったからこそ定年まで続けてこられた」とこれまでの苦労を振り返りました。

受章には「各職場でたくさんの方に多くのことを学ばせていただいた。教育関係者の方々はもちろん、地域の方々や家族には大変感謝しています」と話されました。

瑞宝単光章〔郵政業務功労〕 堺（さかい） 千三（せんぞう）さん〔所沢 70歳〕

昭和40年に日本郵政公社に入社以来、郵政業務に精励され、平成17年に退職するまで40年間気仙沼郵便局に勤務されました。

在職中24年間は配達業務に従事。ポストに投函すれば、確実に相手に届く郵便サービスは『当たり前』かもしれないが、この『当たり前』を維持するため、送り主の大切な郵便物の汚損や誤配達には特に気を付け、その責任に毎日身の引き締まる思いだったと語る堺さん。

「受章は、多くの先輩方や同僚を代表していただいたもの。また、お客様あっての郵便局でもあり、皆さまにはとても感謝しています。今後も趣味のグラウンド・ゴルフや天旗を続け、老人クラブの活動にも関わりながら、地区のために微力ながら貢献していきたい」と話されました。

―叙勲・褒章とは―

国家または公共に対して功労のある方に勲章を授与することを叙勲、社会の各分野における優れた行いや業績のある方に褒賞の記章を授与することを褒章といい、毎年、春と秋に授与されます。

旭日双光章

瑞宝双光章

瑞宝単光章